

(様式第4号)

上田市美術館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市美術館協議会
2 日時	令和6年12月12日 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	上田市立美術館 市民アトリエ・ギャラリー
4 出席者	小林幸雄会長、米津福祐委員（職務代理者）、長田泰明委員、笠原美智子委員、佐藤聡史委員、武田敦子委員、伴美佐子委員（五十音順）
5 市側出席者	土屋市長、小林文化スポーツ観光部長、西田館長、荻原総合プロデューサー、山寄美術館長、岡田学芸展示係長、信藤教育普及係長、竹下主査、大塚主事、吉川指導員 （合同会議）緑川副館長、佐藤副館長補佐、小泉舞台技術係長、田澤事業係長、馬場総務係長
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 1人（合同会議）
8 会議概要作成年月日	令和6年12月14日

協 議 事 項 等

交流文化芸術センター運営協議会・美術館協議会合同会議

- 開会（小林文化スポーツ観光部長）
美術館協議会の委員1名が所要により欠席との報告あり
- 委嘱式
市長から人事通知書を交付（交流文化芸術センター運営協議会・美術館協議会）
- あいさつ（市長）
- 会長・副会長・職務代理者の互選
設置条例に基づき、会長、副会長、職務代理者を委員互選により選出
交流文化芸術センター運営協議会会長に平田利江子委員、副会長に荒井洋文委員を選出
美術館協議会会長に小林幸雄委員、職務代理者に米津福祐委員を選出
- 委員自己紹介
- 事務局自己紹介
- 議事
各協議会及び合同会議の設置目的等について説明（小林文化スポーツ観光部長）
(1) (2) 令和6年度事業計画について、資料に沿い概要を説明（事務局）
(3) 第三次上田市総合計画策定に向けた分野別意見聴取について資料に沿い説明（事務局）
- その他
「第49回 全国大学版画展」の観覧について（事務局）
新国立劇場バレエ団「くるみ割り人形」の観覧について（事務局）
- 閉会（小林文化スポーツ観光部長）

美術館協議会

- 開会（事務局）
第3期新委員に送付した資料（今年度実施済みの協議会での配布資料「令和5年度事業報告、令和6年

度、7年度の事業計画等報告」) についての説明。

2 議事 (会長)

- ・資料確認
- ・委員自己紹介 (任期：令和6年12月12日から令和8年12月11日まで (2年間))
小林幸雄会長、米津福祐委員 (職務代理者)、長田泰明委員、笠原美智子委員、佐藤聡史委員、
武田敦子委員、伴美佐子委員

(1) 上田市美術館協議会の役割について、(2) 上田市美術館運営方針の改定について (一括協議)

【説明】

(事務局)

(1) 上田市美術館協議会の役割について資料に沿って説明。

上田市立美術館条例 第14条から16条に基づいて、協議会を開催している。

令和3年度に、開館から6年間の事業評価をしていただいた。そのうえで、令和3年度から概ね5年間の運営方針を定めた。

以後、毎年度、事業評価をしていただき、次年度の事業計画に反映を行っている。

(2) 上田市立美術館運営方針の改訂について説明。

令和3年に、令和7年度までの5年間の実施を目処に運営方針を策定した。

令和7年度中に、次の期間に向けた運営方針を定める必要がある。資料に沿って、令和6年度から令和8年度までの、運営方針改訂までの今後の流れを確認。

次に、運営方針について、これまでの経過及び取組等を資料に沿って、以下のとおり順次説明。

- ・基本理念、事業区分の変遷について
- ・事業区分ごとの事業イメージ、事業実績について
- ・運営方針に定められている事業内容と実績との対照 (ギャップ) について

また、運営管理について、経費節減とともに収入の確保に努めるという方針のもと、助成金等を獲得しながら展覧会を運営してきた経過を説明。

人材確保と配置については、開館前の計画と現状の体制の違いを、サントミュージーゼの組織体制を示しながら説明。

【協議】

(会長) 質問・意見があれば

(委員) 寄贈寄託購入の作品についての判断についてはどのような流れで行っているのか。

(事務局) 年に1度程度、美術品選定委員会にてはかり、収蔵の可否について決めている。

(委員) 現在の組織体制について、事業の数に対して対応人員が少ないように感じられるが、職員の負担や残業などはどうか。

(事務局) 現在の人員で館運営を進めていくうえで、一人の職員がいくつもの役割を担っている。実際、業

務負担や残業も増える傾向にある。人事部門に人員増の要求等も行っているが、上田市全体での人員募集も厳しい状態。専門職員の採用などもすぐには難しく、十分な人員を確保出来ていない現状はある。

(委員) 「美術館」とは、グローバルスタンダードとも言える一般的な基準として、まずは「深い調査」があったうえで、「どのような作品を収蔵しているか」と「良い展覧会を行っているか」の両輪で質が判断・評価されるもの。そのうえで教育普及によって市民に還元するというサイクルであるべき。そのための第一歩はあくまで「専門職員の採用」であるべきなのは。美術館をつくることとは、専門の職員を採用することであり、上田市だけが例外になり得るわけではないことを自覚する必要がある。

市として増員が難しいまたはダウンサイジングしていくということであれば、人員と事業量とのバランスという点で、集中と選択という視点での判断が必要となる。庶務業務についても、1名の職員で担える業務量には見えない。

(委員) 第三次計画の策定に向けて。行政がつくるものは市民にとって兎角わかりにくくなりがちであるので、市民にとっても「サントミュージゼがもっと良くなる」という前向きなイメージが伝わりやすい形でのアウトプットが出来ると良いのでは。

3 その他

(会長) 資料をご覧いただき、協議会後でも構いませんので、事務局にご意見をお寄せいただきたい。

荻原プロデューサーあいさつ

4 閉会（事務局）

〔事業見学〕「第49回全国大学版画展」観覧のご案内。(15:40～)

〔事業見学〕「新国立劇場バレエ団『くるみ割り人形』」(2025年1月12日)観覧申込について。